

# 海外派遣留学プログラム 帰国報告書

記入日	2023年8月9日
所属学部・ 研究科・学府	工学部
所属学科・専攻	都市環境システムコース

## 1. 留学先について

留学先大学名	ダラム大学							
留学先所属学部等	工学部土木科							
留学期間	出発日	2022年9月9日	入学日	2022年9月23日	修了日	2023/6/1	帰国日	2023年6月29日
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input type="radio"/> 民間アパート		<input type="radio"/> その他( )			
	通学時間	10分					<input type="radio"/> On campus	
	通学方法	<input type="radio"/> 徒歩						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	( ) 人部屋		<input type="radio"/> その他( )			
共有スペース	<input type="radio"/> 完全個室	<input type="radio"/> キッチン	<input type="radio"/> トイレ	<input type="radio"/> バス	<input type="radio"/> リビング	<input type="radio"/> その他( )		
食事	自炊	10 %	学食	90 %	外食	% その他( )		
保険	海外旅行保険(名称)		JTBトータルサポートプログラム					
	留学先国・大学指定の保険(名称)		NHS					<input checked="" type="checkbox"/> 加入必須
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田	⇄	カタール(飛行機)	⇄	ダラム(飛行機・車)			

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	234万 円
-----	--------

出どころ				
自費	<input type="radio"/> 貯金	80万 円	アルバイト 円	その他 円
援助	<input type="radio"/> 親	50万 円	家族・親戚 円	その他 円
奨学金	<input type="radio"/> JASSO	1,040,000 円	その他名称( ) 円	
その他	その他( )			円

### 2-1. お金の管理方法

渡航時	現金	2万 円	その他( ) 円	
留学中	海外送金	<input type="radio"/> キャッシング	<input type="radio"/> その他( )	クレジットカード

### 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	クレジットカード
住居にかかった費用	クレジットカード
その他	現金、クレジットカード

### 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			20万	円
JTBトータルサポートプログラム (海外旅行保険・危機管理サービス)			17万	円
その他の保険料			5万	円
査証・在留許可証			12万	円
住居			1,100,000	円
光熱費				円
食費			400,000	円
通学に要する交通費				円
教科書, 教材費			3,000	円
その他大学に支払った経費			0	円
その他 ( 旅行 )			200,000	円
その他 ( 生活費 )			100,000	円

### 3. 学業面

履修科目名	種類 ex. 正規, 聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無		
			有	○	無
1 BEng Engineering Project		40 UK Credit	○	有	無
2 Civil Design 3		20 UK Credit	○	有	無
3 Geotechnics 3		21 UK Credit		有	○ 無
4 Environmental Engineering 3		22 UK Credit		有	○ 無
5 Structures and Geomatics 3		23 UK Credit		有	○ 無

#### 3-1. 授業科目の選択, 登録方法

工学部の3年生は全科目が必修なので、ホームページに載っている必修授業をそのまま取りました。留学生はこの通りになくても良いみたいで、過去の留学生は土木科でも電気電子工学科の授業をとっていたりと柔軟な対応をしてくれるみたいです。ただし、他学部の授業をとれるかは不明です。履修登録方法としては、授業開始の2週間前くらいに千葉大で言う学生ポータルが使えるようになるのでそこから申し込みます。また、千葉大と同じく授業開始後2週間までは受講講座の変更が可能です。

#### 3-2. 授業内容, 方法に関して

1学期と2学期は講義中心で、3学期は試験とそのための復習期間みたいな感じでした。合計5つの科目を取っていたのですが、1つは毎週30分のミーティングを指導教員と進めつつ、論文を完成させると言うものでした。アカデミックな論文を書くのは初めてだったので、とても良い経験になりました。もう1つは、与えられた課題に対し、どのようなEngineering Workを施せば良いのかを、毎週2時間のセミナーで実際に土木分野で働いている人の意見のもとに完成させていくと言うものです。残りの3つは、講義ののち、試験があるものでした。

#### 3-3. 語学力について

工学部だったので、あまりリーディングの課題はなかったです。また、リスニング力がそこまで高くなくても、講義で配られるいわゆるレジュメに必要なことは全て書いてあるので、なんとかなりました。試験の他に、レポート課題は合計3個ありました。友達と会話するときは、特に現地の子はスラングを多用してくるので最初は戸惑いましたが、次第に慣れました。なんだかんだたくさん喋っていると慣れるものです。また、授業に関しては、コロナ後から全てが録画されているので、わからないところがあれば見返すことができ便利でした。

### 3-4. 図書館など学内施設について

学内施設は非常に充実していました。寮ごとに体育館や図書館、ジム、場合によってはミニシアターやITルーム(パソコン室)などがあります。所属している寮の施設は基本的に無料で(ジムは年約5000円ほどかかります)利用することができます。私は自分の部屋で勉強できないタイプなので、同じ建物内に図書館やパソコン室があるのは非常に助かりました。大学自体の施設としても、24時間営業の図書館、ラグビー場やサッカーコート、さらには室内ボート練習場まである体育施設など、かなり充実していました。特に図書館はかなり蔵書数が多く、さらにその多くは電子化されているので、実際に赴かなくても利用できるのがありがたかったです。

### 3-5. その他

採点ボイコットで履修していた授業期間5個のうち、2個の成績が返ってきていません。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

部屋は一人部屋で、キッチン・シャワー・風呂が6人で1つを共有する形でした。同じ建物内でも綺麗なものと汚いものの差が激しかったのですが、運良く綺麗なものに当たりました。2日に一回のペースでおばちゃんが掃除してくれます。意外と6人1つでも不自由なく過ごせました。部屋は2週間に1度掃除機をかけてくれます。もっと頻繁に掃除したい人は、ポーターに聞いたら掃除機を貸してくれます。

### 4-2. 食生活について

食事付きの寮でした。たまに野菜や米が洗剤の味がしていましたが、食事はコミュニケーションの場でもあるので食事付きの寮で良かったと思います。ただ食事の時間が17:00-19:00までと早いこともあり、夜に小腹が空くこともあったので、米などを炊いて食べることもたまにしていました。ちょこちょこ夜食で日本食を食べていたので、日本食が恋しくなりすぎることはあまりなかったです。

### 4-3. インターネット環境, 携帯電話について

ピザを取りに行った時にもらったLEBARAという会社のSIMカードを継続で利用しました。10ポンド(2000円弱)で15ギガ使えるので十分でした。ただし、日本のようにどこでも通じるわけではなく、スーパーなど建物の中はネットが通じないなんてことは日常茶飯事で、ひどい時だと街中でも何故か通じなくなることもありました。学校のWi-fiは申し分ない質でした。

### 4-4. 服装について

イギリスはとにかく気候がゴロゴロ変わるので、調整するのに苦労しました。イギリス内でも特に北の方のため冬が寒く、朝は-10度まで下がることも珍しくなかったです。光熱費込みの寮だったので、あまりケチらず冬はヒーターをほぼ常かけていました。一方で夏が近づいてくるとある日突然暑くなることもあり、ジャンパーを着ていた次の日に半袖短パンというも珍しくなかったです。きている服のデザインも日本と全然違うので、日本からあまり待っていないはず、PRIMARK(日本で言うGU)などで段階的に揃えればよかったなと少し後悔しています。

### 4-5. 健康管理について

Freshers Flue!に何度かかかりました。これはイギリスという国柄、全世界から生徒が集まるので免疫がないタイプのウイルスをもらってしまうものです。寮に入って1週間くらいでおそらくコロナにかかり、治りたての頃に別のFreshers Flue!に感染しました。日本ほど気軽に病院に行く習慣がないので、風邪薬を飲んでひたすら寝て治しました。あまり親しい人がいない中でしんどい思いをするのは精神的に結構きつかったです。その後も、長期休暇明けにみんなが帰ってくるたびに何かしらの病原菌をもらい、なんだかんだ一年中風邪をひいていた気がします。

### 4-6. 保険, 危機管理サービスの利用について

特になし

### 4-7. 課外活動について

女子ラグビーサークルに入りました。みんな自分より背も高く、ガタイが良かったため若干場違い感がありましたが、めちゃめちゃ楽しめました。ずっと興味はあって、でも日本では敷居が高いのでこの機会に試せて良かったです。他には、寮で月に1回異文化交流会があったので、日本文化を紹介したり、日本語を教えたりなどをしていました。ラグビーは他の予定で忙しくなってしまったため2、3学期はあまり行くことができませんでしたが、寮内の異文化交流会は最後まで顔を出し続けました。日本文化や日本語に興味を持っている人が想像以上に多く、嬉しかったです。

#### 4-9. 日本から持参してよかったもの

レンジでお米が炊ける容器がとても重宝しました。私は忘れてしまって、短期でイギリスに来ていた友達に持ってきてもらったのですが、どうしても日本食が恋しくなった時や小腹が減った時にはsushi riceをチンするだけでご飯が食べれたので便利でした。お土産としては、歌舞伎役者風になれるフェイスパックを誕生日などの小土産に渡すと喜んでもらえました。食べ物で言うとハイチューはウケが良く、梅干し風味のものは珍しがられるのでコミュニケーションのきっかけになると言う点ではよかったです。あとは、インスタントラーメンはたくさん持っていきましたが、完食しました。イギリスにもインスタントラーメンは売っていますが、やはり日本のものの方が味・食感ともに美味しいです。

#### 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

インスタントの味噌汁。持っていきすぎたため、最終的に余らせるという勿体無いことをしてしまいました。マスクも、50枚ほどもって行きましたが、2、30枚余らせました。あとは服。国が変わればファッションの着こなしもやはり変わってくるため、それなりの数を持って行ったものの、結局は現地でもたくさん購入してしまいました。

#### 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い, マナーなど)

正直に言って、人種差別を受けたと感じることは数回ありました。例えば、明らかにアジア系と関わりたくない態度で表されたり、バーで注文を取ってくれないなどです。しかし、こういう時は悲しんだりムカついたりしても無駄なだけなので、スルーするように心がけていました。自分の体験ではないですが、夜道を歩いている時に卵を投げられた中国人の子もいたみたいです。いちいち気に留めていても精神を消耗するだけなので、よっぽど大きなこと(それこそ卵を投げられるなど)でない限りは悲しいですが、友達に愚痴る程度で受け流していました。事が大きすぎる場合は、寮長や大学に相談しようと思っていました。

#### 4-12. 余暇の過ごし方

##### 旅行

ロンドンやアイルランドに行きました。大型休暇は皆帰省してしまうので、コロナの関係で帰国が難しい中国人の子などと料理を作り合うなどで過ごしました。暇になっても映画を見に行ったり、本を読んだりしてのんびり過ごしました。日本にいるときはバイトに明け暮れていたの、ゆっくり過ごせて良かったです。

##### その他 \*気分転換やストレス発散法など。

夜に友達の部屋に行って映画を見たり、お酒を飲んだりしました。また、テスト期間は意識的に散歩に行ったり、庭で勉強するなどしてあまり屋内に籠らないようにしていました。幸いなことにout goingな友達が多く、友達の方から「なんかしょ！」って感じで誘ってくれることが多かったです。時にはクラブなどにも行きました。日本ではできないと言い聞かせて行ったものですが、良い経験になったと思います。

#### 5. その他

##### 5-1. 留学先大学について

ダラム大学は非常に歴史のある、カレッジ制の大学です。ステレオタイプ通り、オックスフォードやケンブリッジ第一志望の人がほとんどで、それゆえ優秀な人も多かったです。一方で、オックスブリッジほどアカデミックプレッシャーがなく、かつスポーツが強いこともあってか、生徒は皆生き生きしていました。かなり放任スタイルの授業で、最後に一発試験なので、計画性に自信がなく、試験形式が苦手な私にはこのスタイルは少し酷でしたが、自分のペースで勉強できる人にはいいカリキュラムだと思います。

##### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

こじんまりとした小さな町にある大学です。フレンドリーな人も多く、人口の半分以上は学生と言われています。主要都市からのアクセスこそ悪いですが、誘惑の少ない、勉強するにはちょうど良い環境だと思います。留学生も多く、イギリスにいながらさまざまな国の文化に触れる事ができたのも良かったです。

##### 5-3. 留学を終えて

実際に渡航するまでは、「私なんか言っただけの良いのだろうか」と悩んだものですが、行って本当に良かったと思います。カレッジでのフォーマルディナーやハリポタロケ地での入学式、文字通り世界中から集まった友人と過ごした時間は日本では体験する事ができないものだったと思います。日本でもあまり深く学んだことのなかった土木を英語で学ぶのは難しかったですが、挑戦して良かったと思います。あっという間の9ヶ月で、帰国して1ヶ月が経ちますがまだ定期的に戻りたいと感じるほど充実した日々でした。人生で一番楽しかった1年かもしれません。この経験を将来に活かせるように頑張ります。